

恵みと真理のニュース



2016年12月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

神様は胃癌、腰ヘルニア、 憂鬱症すべてを治療してくださいました

私はジョンジュの豊かな家庭で6人兄弟の末子に生まれ育ちました。父親は法院の事務官だったし、母親は料理士であちこち呼ばれるほど有名でした。姉と兄も放送局のアナウンサーと教育者と演劇俳優など世の中でうまくいっている兄弟でした。

親がお寺に通い偶像崇拝をしました。それで私も子供の時から何も知らないまま親について寺に行ったりしました。一番上の姉が結婚して二番目の兄が結婚しましたが、姉が熱心に教会に通う真実なキリスト教の信徒でした。結婚した姉以外にの家族の皆がキリスト教を信じる兄嫁を迫害し憎みました。私は小学校を卒業をして中等高等学校をカトリックの私立学校に入りました。それで、義務的に毎週のカトリック教会に行き、ミサに三席しました。家では寺に行き、学校ではカトリック教会に通う生活がしばらく持続しました。

そうするうちに中学校先生だった兄が友達と麻雀というばくちで凝り、家運が急に傾きました。私は仕方なく高校を卒業をして公務員試験を受けて電話局で勤務するようになりました。そして、父が亡くなって、まもなくお見舞い結婚をしました。結婚してみたら舅姑と再婚して姑の人格に問題があって私の結婚も大変でした。婚家もカトリック教だったので仕方なくカトリック教人になりました。今回は生活するうちに旦那が追い出されるように職場を辞めるようになって暮らした。二番目の義兄の勧めで旦那は重装備技術を習って大型建設会社に就職してアフリカリビアの排水工事現場に行き勤務するようになりました。その時、兄の嫁が海外勤務するため行く旦那に祈ってくれて小さい聖書をプレゼントしてくれました。旦那は寂しくて海外で生活する中で聖書を読みながら神様に対する信

仰が出来て神様を信じ委ねる信仰生活を始めました。そうしながら、私に送る手紙にいつも教会に通い神様を信じ仕える信仰生活をするように勧めました。しかし、私はたまにカトリック教会だけ行ってプロテスタント教会の信仰には関心を持ってなかったです。

海外勤務を終えて帰国した旦那はしばらく国内で勤務した後、退職して個人事業をはじめました。家計も良くなりました。そのごろ私が偶然に賛美使役者に出会って専門的に振付と賛美を習いました。そして、振付を教える大学に入り勉強してから国内にある教会を巡回して海外まで行って活動しました。人々に拍手をもらって驕慢になりました。

御言葉に基づいて固い信仰を持ってない時に、神様の栄光と主の喜びが目的ではなくただ自分の満足と喜びの奉仕でした。私は村のアパートでも代表をするほど性格が積極的で活動的でした。

そうするうちに今回は婚家の財産紛争して泣きっ面にハチで旦那が借金保証をしたことが間違っただけにならなくなりました。そうして、かかりした私に胃癌と腰ヘルニアの病気が来しました。それだけでなく精神的にも酷い憂鬱症まで患いました。私は一つの足しか使えなくなりました。その時、旦那の仕事のため京畿道のグリに行き住むようになり、時間が過ぎてもっと病気が悪化されました。全能なる神様、愛と憐れみの神様を仰ぐ以外にはどんな方法がなかったです。

毎日のように讚美歌528章"主よ。私の病気を癒してください。すべての病気を癒してくださいと約束してくださいました。私が強く信じ主に求めるので大きい権能で治してください。"と賛美をしながら大きい声で祈りました。治療をしてくださいれば誰よりももっと熱心に主に献身します。主が喜ばれることに最善を尽くして生きると念を押しました。

腰のヘルニアと胃癌の症状が悪化されグリにある大

学病院に入院して腰ヘルニア手術を受けて、い組織検査を受けました。胃癌手術の日程が決まった状態で神様に切に祈りながら、痛い状況でしたが、熱心に礼拝をして奉仕する生活をしました。そして、ソウルのカンナンの大学病院で胃組織検査を再び受けました。すると、驚くことか、神様の恵みで胃に異常がないと言われました。神様が奇跡的な治療の恵みを与えてくださり、私の健康を回復してくださいました。まことに驚くほどの事でした。その時、私は痛くて体重が39kgしかありませんでした。ハレルヤ!

旦那の事業をする現場がハソンに引越しました。そこで恵みと真理教会に通う首区域長に出会ってハソンにある田園聖殿に通い信仰生活をしました。御言葉と聖霊充滿の恵みの中で真のクリスチャンらしく神様の栄光と主の喜びのため、キリストが尊貴になるように力を尽くす生活をするようになりました。御言葉の中で見せてくださる主の愛と神様の摂理を悟って賛美し信仰が成熟になりました。一人が救われるため献身することが尊く美しい事なのか悟りました。一足一足、主の前で近づくため区域長の職分を受けてもっと熱心に奉仕するようになりました。

この険しい世の中で生きるあいだ様々な問題が来てたまには心配をしますが、祈りをすれば神様に大きい慰めと担える力をくださる感謝と賛美を主に捧げます。病気を患ったとき神様に祈りながら約束した通り、私を天国で呼んでくださるその日まで真面目で忠誠して主と教会を仕えます。このように証をするように大きい恵みと愛を与えてくださった神様にすべての栄光を捧げます。



【信仰コラム】

思慮深い乙女、思慮が浅い乙女

”そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出るのに似ている。その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。....” (マタイによる福音書 25: 1~13)

本文はイエス様の再臨に備える信者の態度如何によって思慮深い者になり、思慮が浅い者になるという事実を当時ユダヤ社会の婚姻慣習に比喻して明らかにしています。

まず、イエス様の再臨について聖書にどのように予言されているかを調べてみます。

旧約聖書に予言者を通じて予言されたお言葉があります。(ダニエル 7: 13、14) 天使が予告したお言葉があります。(使徒言行録 1: 9~11) イエス様が自ら言われたお言葉があります。”そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。また、彼は大きいラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。”と言われました。(マタイによる福音書 24: 30、31) イエス様の再臨は新約聖書で探することができる最も重要な教理の中で一つであります。

次は、イエス様の再臨目的に関して調べてみます。

イエス様の再臨の目的は聖徒のためです。イエスキリストの再臨でキリストの中で死んだ者の体が復活して

生きている者の体が瞬時に変化して共に光栄の中で主を拝むでしょう。そうして永遠に主と共に生きるでしょう。

イエス様の再臨の目的にはキリストの福音を信じなかった人々に刑罰を与えることも含まれています。(デザロニケの手紙二 1: 7~9) 福音を信じなかった者が受ける永遠な滅亡の刑罰はサタンとその使者達のために予備された火と硫黄で燃える池に投げ込まれることです。

最後に、イエス様の再臨をどのように備えるべきかを調べてみます。

本文の比喻に登場する花婿はイエスキリストを意味して、花婿を迎えに出た乙女達は信者を意味します。花婿を迎えて喜びの宴會に参席するためには必ず灯と油を予備すべきです。'灯'は教会の儀式、教理、体制、伝統のようなことで、'油'はイエスキリストに対する正しい信仰と愛であります。教会の儀式に参加して、教理を学んで分かり、教会の体制と伝統を重んじて役目を受けて奉仕活動をするが、イエスキリストに対する正しい信仰と愛がない人がいます。聖書とキリストについて聖書通りに信じず、自分が好む通りに信じる人がいます。彼らは'灯'だけあって'油'はない信者です。

花婿が来るのを待っていた乙女達は時間が遅延されるので疲れて居眠りをしていたが”さあ、花婿だ、迎えに出なさい”という声を聞いて気が付きました。思慮が浅い者達が思慮深い者達に”あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかけていますから”と話したら思慮深い者達が”わ

たしたちとあなたがたに足るだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう”と答えました。信仰は他の人に借りることができず、買うこともできません。後に信仰を回復しようとしても既に手遅れです。花婿が来たので予備した者達は一緒に婚姻宴會に入り、戸は閉まりました。その後に残った乙女達が”ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください”と言ったが彼らに帰ってきた言葉は”はつきり言うが、わたしはあなたがたを知らない”という冷酷な答えでした。

イエス様の再臨を懇切に思慕して待つとしていかなる非常な行動を取る必要はありません。救いの信仰に固く立って礼拝中心に生きて、主の事に励みながら生活したら良いです。イエス様が比喻の最後に”だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。”(マタイによる福音書 25: 13)と結論を結びました。死は救いを得られなかった人に救いを得る機会を永遠に喪失させます。イエス様の再臨は正しい信仰を持ってなかった信者に携えられる機会を完全に喪失させます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

優先順位



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

その人が持った信仰や哲学は彼が事物を選択して仕事を処理する態度に影響を及ぼします。替えて言わばその人が事物を選択して仕事を処理する態度を見れば彼が持った信仰と哲学が分かります。ここで言う哲学と言うのは世界観や人生観などを言う言葉です。事物を選択して仕事を処理する態度の核心は優先順位です。優先順位とは他のことに先立って付けられた順番や位置を意味します。私たちは自分が好むとか確信することに優先順位を置くようになります。今日はすべての人が優先順位にしななければならないものなどに対してよく見ます。

第一は、自分の理性より神様の啓示に優先順位を置かなければなりません。

理性は計算する精神です。計算しようとするれば論理的な考えと判断をしなればなりません。だから理性と言うのは事物の理を論理的に思って判断する心の作用を言います。理性は人にとっても貴重なものです。しかし私たちが理性万能主義、理性第一主義に落ちてはいけません。人間の理性としてはわからなくて、できないことがとても多いです。人間に理性をくださった神様はその上にもっと驚くべき恩寵を施しました。それは神様の啓示です。神様の啓示は聖書に記録されています。啓示は理性よりもっと次元が高いです。だから神様が啓示なさったお言葉は人間の理性だけでは完全には悟ることができません。神様が啓示なさったお言葉を聖霊様の教えを受けずに人間の理性だけで分かろうとすることは徒勞になります。第一、あがないの恵みと真理を理性だけでは到底に悟ることができません。

- ① 人間の罪をあがないするために神様のイエスキリストが童貞女の身に聖霊で孕胎されて世の中へいらっしやったという事実は私たちの理性では理解することができません。
 - ② イエス様が私たちの罪をあがないしようと十字架に釘付ける事ができなくてたまらなくて三日ぶりに復活して天に昇りなされたという事実は私たちの理性では理解することができません。
 - ③ 誰でもイエスキリストを信じるだけで罪の赦しを受けて義のあるようになるという事実は私たちの理性では理解することができません。
- 第二、新しく再び生れの真理を理性だけでは到底に悟ることができません。
- パリサイ人ながらユダヤ人の官員であるニゴデモがイエス様へ来て神様の国に入る道に関して質問しました。これに対するイエス様の返事を“神様の国に入ろうとすれば新しく再び生れかわって永生を得なければならないし、生まれかわって永生を得ようとするればイエスキリストを信じなければならない。”という返事で要約することができます。このような真理は人の理性だけでは悟ることができません。聖霊様の助けを受けなければなりません。

第三、イエス様の再臨と聖徒の携去と復活そして新しい天と新しい地そして新しいエルサレム城に対する啓示のお言葉はやはり人の理性だけでは悟ることができません。このような啓示のお言葉を人間の知識と経験で説明しようと思つて見たら聖書を史学、考古学、言語学、文学などに批評して、科学で説明することができない超自然的な奇事に関する部分を神話で規定して非神話化する作業をするようになりました。そして自由主義の神学、新神学、解放神学、死神神学、俗化神学、土着化神学などの非聖書的な神学思潮が教会を蠶食して聖書の信仰を持つことを妨げます。人間の理性より神様の啓示に優先順位を置いて行う人は神様の啓示なさったお言葉が理解できなくても信じて、理解できなくても従順しながら生きて行きます。

二番目は、財物より信仰に優先順位を置かなければなりません。

人が財物を豊かに所有しようと思うことは正常な欲望です。神様は自分が創造した物質を人生が十分に享受するようにしました。神様は彼が選んだ民におっしゃるのを“もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行なうならば、あなたの神、主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであろう。もし、あなたがあなたの神、主の声に聞き従うならば、このもろもろの祝福はあなたに臨み、あなたに及ぶであろう。あなたは町の内でも祝福され、畑でも祝福されるであろう。またあなたの身から生れるもの、地に産する物、家畜の産むもの、すなわち牛の子、羊の子は祝福されるであろう。またあなたのかごと、こねばちは祝福されるであろう。あなたは、はいるにも祝福され、出るにも祝福されるであろう。”(申命記 28:1~6)、“主はその宝の蔵である天をあなたのために開いて、雨を季節にしたがってあなたの地に降らせ、あなたの手のすべてのわざを祝福されるであろう。あなたは多くの国民に貸すようになり、借りることはないであろう。”(申命記 28:12)としました。しかし私たちが気を付けなければならないことは物質万能主義、物質第一主義でかたよってはいけません。財物より神様を仕える信仰がまずされなければなりません。このような優先順位が変わるようになれば多くの所有物が福ではなく呪いになります。

アブラハムとアブラハムの甥 ロトを例を取って見ます。アブラハムの神様の呼ばれて神様が指示した地に離れ発つ時に甥ロトを連れて行きました。アブラハムがガナアン地に定着するようになったし二人の皆が大金持になりました。羊と牛の群れが多くて奴婢も多いので地が狭くて二人に属した牧者の争う事が頻繁でした。アブラハムとロトは別れることに決断を下しました。ロトはヨダンを選んで東に立ち去ったしアブラハムは西の方のヘブロンで帳幕を移しました。ロトはヨダンの城邑に住んだが結局はソドム城に入って行って暮しました。アブラハムは財物より信仰に優先順位を置いて暮しました。一方にロトは信仰より財物に優先順位を置いて暮しました。後日神様がソドム城を硫黄の火で審判なさる時ロトは財物をすべて失ったしロトの妻は財物にこだわっている途中塩の柱になってしまいました。財物を得るための手段になった信仰生活ではなく信仰生活のための手段である財物にならなければなりません。信仰生活が優先順位にならなければなりません。

クリスチャンが一番重く思うことは心をつくして神様を仕える信仰です。不信者である親や連れ合いが親かイエス様なのか、夫なのかイエス様なのか二者択一しなさいという無智で暴悪な要求をする場合があります。これは二者択一の問題がなれないです。人は神様と比べる対象ではないです。神様は天地万物を創って人を造った創造主です。神様は全人類が仕える対象です。イエス様を信じて愛しながら仕えるから親を減らす愛するとか夫や妻を減らす愛するようになる人はいません。むしろその反対です。親や連れ合いをイエスキリストのところに導くために以前よりもっと気を付けて真面に行動するようになります。不信者の中にはイエスキリストを信じる信仰を持って無条件憎んで逼迫する人もいます。真実な信者はそういう逼迫に屈しないです。自分が優先順位に置くのが何やら分かるからです。信仰が肉身の生命より珍しいということが分かっているし信仰が優先順位であるからです。

三番目は、人々の意志と状況より神様の御旨に優先順位を置かなければなりません。

民主主義は多数決を原則にします。多数の意志が優先順位です。しかし多数の決定が必ず正しいではないです。聖徒は多数の意志を尊重するがしかし神様のみ旨を尋ねなければなりません。現実状況や多数の主張と意志がどうでも神様のみ旨に従って行動しなければなりません。

エジプトから解放されたイスラエル民がガナアンを向けていく紅海の前には到着しました。これ以上進むことができなくてとどまっていた。このような情報を手に入れたエジプト王が彼らを捕らえようと兵車と馬兵を動員して追撃しました。エジプト軍隊が駆けて来ることを見たイスラエル民はどうすることが分からなくて泣き叫びながら右往左往しました。そして神様とモセを恨みました。しかしモセは民に圧倒されなかったです。彼は神様が約束したお言葉を通じて現実状況を解釈して民の考えをすぐ取ってくれようと努力しました。モセが民に叫びました。

“モセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい。」”(出エジプト記 14:13,14)

モセは神様を向けて祈ったし神様のみ旨が分かりました。そして神様のみ旨に従って行動しました。モセは多くの人の意志より神様のみ旨を優先順位にしました。

人生の成功と失敗のカギは優先順位の決定にあります。イエスキリストは“あなたがたは先に彼の国と彼の義を求めなさい。そんなんにすればこのすべてのものを加えてくださる。”とおっしゃいました。彼の国と彼の義を先ず手に入れる人は理性より神様の啓示のお言葉に優先順位を置く信仰を持ちます。財物より信仰に優先順位を置いて決めます。多数の意志や当面した状況より神様が喜ぶ御旨に優先順位を置いて思って判断して言います。皆さんは事毎にこのような優先順位を適用することで神様が愛と権能の手を突き出して加えてくださる恩寵を受けるように願います。